

2023 年 日本薬剤師会 国際交流プログラム

－第 29 回 FAPA 学術大会 参加報告－

有限会社木村ファーマシー きむら調剤薬局牟礼店

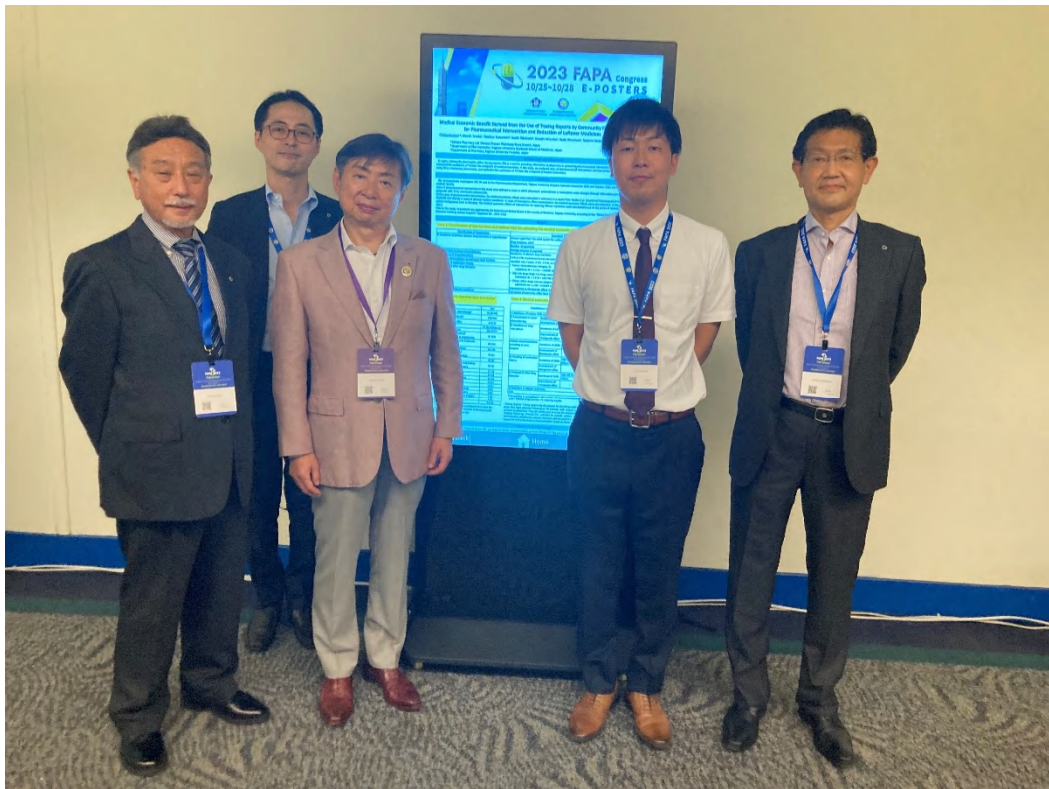
越野優希

この度、日本薬剤師会 国際交流プログラムの助成を受け、2023 年 10 月 24 日（火）から 28 日（土）に台湾・台北で開催された FAPA 2023／第 29 回 FAPA 学術大会に参加させていただいたため報告します。

FAPA（アジア薬剤師会連合）学術大会は原則 2 年ごとに開催されますが、今回の第 29 回大会は臨時開催され、第 30 回大会は 2024 年に韓国・ソウルでの開催が予定されています。今大会は新しく加盟したネパールを含む世界 25 カ国・地域から薬局、病院、行政、大学など様々なフィールドで活躍する薬剤師 1675 名が参加し、本邦からも多くの先生方が参加しました。プログラムには基調講演やセミナー、ワークショップ、ポスター発表（816 演題）、口頭発表（127 演題）、企業展示などがあり、各国の参加者が活発な意見交換を行っていました。特に、COVID-19 Pandemic に関するアジア各国の病院や薬局の取り組みについての発表では、本邦と比較して限られた資金や医療資源のなかで対応していた現状などを聞き、私たちにはまだまだできること、すべきことがあると考えさせられました。また、各日プログラムの後半には、ウェルカムレセプションや晩餐会なども開催され、国内学会とはまた一味違う経験ができました。

私が参加したポスター発表では、電子掲示板を用いた掲示・示説が行われました。今回【Medical Economic Benefit Derived from the Use of Tracing Reports by Community Pharmacists for Pharmaceutical Intervention and Reduction of Leftover Medicines（保険薬局薬剤師によるトレーシングレポートを活用した薬学的介入と残薬解消への介入から得られる医療経済効果）】という研究報告を行いました。現地（台湾）の薬剤師から「日本のトレーシングレポートが非常に有益であることが分かり、ぜひ取り入れてみたい」という意見をいただき、改めて薬局薬剤師自ら、日常業務のクリニカルクエスチョンを研究につなげ、学会発表や論文投稿を活用して世の中にアピールし、多くの人に知ってもらうことが臨床薬剤業務の発展には必要不可欠であると実感しました。

本助成は日本薬剤師会学術大会におけるポスター優秀賞の最優秀賞および優秀賞受賞者の中から選出されるものであり、私が最優秀賞を受賞した第 55 回宮城大会（2022 年）から創設され、私が本助成受賞の第 1 号でした。小心者の私には重責を感じるミッションでしたが、アジア各国の臨床薬剤業務や薬学教育などを学び、発表を通して海外の薬剤師とディスカッションを行うなど、素晴らしい経験ができ、本助成は薬局薬剤師が積極的に学術活動を行うためのモチベーション向上に寄与すると感じました。ぜひ、日本薬剤師会会員の皆様も積極的に研究を行い、本助成にチャレンジしてみてください。



電子ポスターでの発表



シンポジウム